

平成 27 年 7 月 9 日
拠点まちづくり担当部

世田谷区小田急線（代々木上原駅～梅ヶ丘駅間）上部利用計画（案）の策定について

(付議の要旨)

世田谷区小田急線（代々木上原駅～梅ヶ丘駅間）上部利用計画（案）を取りまとめたので報告する。

1. 主旨

小田急電鉄小田原線（代々木上原駅～梅ヶ丘駅間）連続立体交差事業および複々線化事業による鉄道地下化に伴い生じる線路跡地の利用（以下「上部利用」という。）について、平成 26 年 12 月に上部利用計画（素案）を取りまとめ、概要を沿線住民に周知するとともに、オープンハウスの開催等により広く区民より意見等を聞いてきた。

また、上部利用施設の総合的なデザイン調整と、魅力的な空間創出のためのデザインコンセプトを住民参加で作成し、これらを踏まえて上部利用計画（案）を取りまとめた。

今後は、各上部利用施設の整備方法や管理主体などについて、関係機関等との協議を経て、区として上部利用計画を決定する。

2. 経過

平成 26 年 12 月 上部利用計画（素案）策定

平成 27 年 1 月 上部利用通信 No. 10 発行 沿線約 24,000 世帯に配布
通路、緑地・小広場、立体緑地等の詳細検討

2 月 上部利用計画（素案）等のオープンハウス開催

平成 26 年度は北沢デザイン会議、デザインワークショップを北沢総合支所街づくり課が主体となって開催した。

上記、上部利用通信 No. 10 アンケート、オープンハウス、北沢デザイン会議等の意見集約を行った。

3. 上部利用計画（案）の概要

別紙「世田谷区小田急線（代々木上原駅～梅ヶ丘駅間）上部利用計画（案）」参照

(1) 計画の位置付け

小田急線（代々木上原駅～梅ヶ丘駅間）連続立体交差事業等に伴い生じる線路跡地利用について、公共施設部分を整備していくための基本的な計画である。

区新実施計画及び区都市整備方針において位置付けている。

(2) 検討経緯と今後の予定

平成 2 5 年度の上部利用計画(施設配置)(区案)策定後の検討経緯と今後の予定を示す。

(3) 公共利用する施設計画の基本方針

駅前広場、 通路、 緑地・小広場、 立体緑地、 防災施設、 上部利用施設
配置図について示す。

(4) 整備の進め方

- ・ 地域住民や関連事業者等と連携・協力の下、関係法令等に準拠し、効率的・効果的に施設整備を進める。
- ・ 区民に愛され、利用される公共施設整備となるよう、今後も区民参加を図る。
- ・ 上部利用デザインコンセプトを踏まえ、「全体のデザインに関する指針」を策定し、3 駅周辺の街づくりと連携、調和のとれた都市空間の創出を目指す。

4 . 概算事業費

総事業費 約 1 2 9 億円 (用地取得費、整備費)

駅前広場	約 1 1 6 億円 (内用地取得費約 1 1 1 億円)
通路	約 2 億円
緑地・小広場	約 2 億円
立体緑地	約 5 億円
環七横断橋	約 4 億円
合計	約 1 2 9 億円

公共利用施設のうち、小田急電鉄(株)と有償使用賃借契約する施設は、通路(一部)、緑地・小広場、立体緑地、環七横断橋(取付部)の合計約 5,800 m²で、これに対する年間の使用料は、現時点の想定では約 2,200 万円である。

各事業の進捗に向け、国庫補助金等の財源の確保を図る。

5 . 今後の予定

平成 2 7 年	7 月 ~	区民意見等公表
	7 月 3 0 日	都市整備常任委員会 (案報告)
	8 月	上部利用計画決定
	8 月以降	東京都の地上部利用検討会 (計画報告)
		区民周知 (上部利用通信、オープンハウス等)
		以降、順次各区間の施設整備計画策定、整備着手